

令和2年度第1回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

●日 時：令和2年9月25日（金） 10：30～12：00

●場 所：土浦市社会福祉センター講義講習室1・2・3

●出席者：

[有識者会議委員（11人）]

大澤委員長，佐野副委員長，森委員，眞山委員，富田委員，堀越委員，栗原委員，松山委員，畠山委員，橋本委員，長島委員

[土浦市（14人）]

東郷副市長，栗原副市長，井坂教育長，川村市長公室長，望月総務部長，塚本市民生活部長，塚本保健福祉部長，船沢都市産業部長，岡田建設部長，羽生教育部長，鈴木消防長

●事務局：佐々木政策企画課長，小川政策員，藤田主任

●配布資料：

資料Ⅰ 第1期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」実施状況報告書（案）
（平成27年度～令和元年度実施事業分）

参考資料Ⅰ 第1期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」各戦略分野の実施状況一覧（平成27年度～令和元年度実施事業分）

参考資料Ⅱ 土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」の見直しについて

当日配布資料1 土浦市まち・ひと・しごと総合戦略進行管理スケジュール

当日配布資料2-1 社会動態（転入・転出）の推移地域別比較（全世代）

当日配布資料2-2 社会動態（転入・転出）の推移地域別比較（0～9歳）

当日配布資料2-3 社会動態（転入・転出）の推移地域別比較（20～29歳）

当日配布資料2-4 社会動態（転入・転出）の推移地域別比較（30～39歳）

当日配布資料3-1 合計特殊出生率・出生率・婚姻率の国・県との比較

当日配布資料3-2 出生数・婚姻件数の比較

当日配布資料4-1 当日配布資料2の分析結果について

当日配布資料4-2 当日配布資料3の分析結果について

1 開会

【事務局】

- ・会議の開催に当たり、新型コロナウイルスへの対応について説明した。
- ・人事異動等に伴い、堀越委員他5人が新しく委員となった。
- ・事務局において新しく就任した栗原副市長を紹介した。

2 委員長あいさつ

- ・本日は、第1期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」事業の進捗管理となる。

3 議事

(1) 第1期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」の進行管理について

ア 各戦略分野の実施状況について

【事務局説明】

【委員長】

- ・資料Ⅰの4ページでそれぞれのプロジェクトごとに計算式を基に成績をつけている。当然大きな目標になるほど達成は厳しくなる。B, C評価については、目標が厳しかったのかもしれないし、逆にA評価は目標が甘かったのかもしれないといった理解で議論を進めていただきたい。
- ・資料Ⅰの6~7ページの4つの戦略分野における成果指標が、土浦市の総合戦略の中で最も上位にある指標（アウトカム指標）となり、最も重要であり、これを達成するために、個別にたくさんの指標（アウトプット指標）がある。
- ・全てをみるより、関心のあるところを深掘りする方向で御議論いただきたい。

【委員】

- ・つくば市への移動が多いということであるが、つくば市の人口の動向はどうか。
- ・18歳から24歳くらいまでの方々の流出がどれくらいあるのか。土浦市に魅力的な職場がないと戻ってこないのではないか。
- ・2020年は、新型コロナウイルスの影響で現在、特に飲食業など閉店する企業が多く、働く口がなければ、働き口があるところに行ってしまう。人口流出を考えると、その時の原因、状況、近隣自治体の状況を考えた上で分析した方がよいと思う。

【事務局】

- ・つくば市は、人口増加傾向が続いている。自然動態、社会動態ともにプラスとなっており、2045年には、水戸市と人口が逆転するという推計も出ている。
- ・18歳から24歳くらいまでの年齢層の流出数について、今回の資料は、総務省住民基本台帳の移動報告に基づき提示したものであるが、この調査は、10歳きざみまでしか公表しておらず、5歳きざみの数値については、あくまで人口ビジョン策定の際の参考値として自治体に提供されているものであるため、18歳から24歳ま

での流出数を算出するのは難しいと考えている。

- ・社会移動の分析の中で働き口の部分も考慮した方がよいのではという意見については、今後の参考にしたいと思う。

【委員】

- ・近隣自治体の整備が進んでいない時代には、土浦市内に茨城大学の学生寮として丸々借りられているアパートもあった。遠くてもメリットがあれば、逆に学生たちを呼び込むことができるのではないかと。東名高速道を走っていた時に、自治体をアピールする垂れ幕を見かけたことがあり、常磐道や東関道の土浦エリアに18歳から24歳くらいまでの人たちに土浦市に来るメリットをアピールするような垂れ幕を張ってもよいのではないかと思った。

【委員】

- ・資料Ⅰの9～11ページのKPIの達成状況の評価について、C評価だからといって一概に悪いということではないということであるが、3年連続してC評価になっているものが8項目あり、うち4項目の達成率が3年連続して下がっている。市民農園の利用区画数、公共交通利用者数、生きがい対応型デイサービス事業の年間利用者数及び中心市街地の居住人口の4つが、残念ながら年々達成率が下がっている項目であり、土浦市単独でどうにもならないこともあると思うが、事務局としての評価と第2期総合戦略への反映状況について御説明いただきたい。

【事務局】

- ・市民農園の利用区画については、農園によっては、立地が悪いところや開園後区画において農園としての十分な適切な機能を提供できないものもあったことから、数ではなく、質的な向上を考えている。現在適した農地の集約と利用率の向上を同時に目指しており、利用率については向上している。今後については、将来的には、農園で首都圏在住の方が農業体験できるよう努力したい。
- ・公共交通利用者数は、バス事業者ともいろいろ話をしているところであり、高校生の絶対数が減っているのが一つの要因ではあるが、それ以外にも様々な要因が重なっている。これについては、本日の有識者会議と類似ではあるが、公共交通の協議会を設けており、協議会が主体となって、国からの支援を受けながら、トータルとしての公共交通の活性化を目指している。
- ・中心市街地の居住人口については、全体の人口が増えない中、中心市街地の居住人口にも課題があるが、これまでの取組の結果として、駅周辺に3つほどマンションが建設され、供給戸数がトータルで350戸あり、現在分譲中のものもあることから、今後中心市街地の増加要因が見出せるものと考えている。
- ・生きがい対応型デイサービス事業は、地域の福祉団体等において空き家や空き店舗を利用して高齢者の健康増進等のためのサービスを提供する事業で、市内に8か所ほどあるが、年間利用者数の減少要因については、この後把握させていただいて、次の会議にでも御報告させていただきたいと考えている。

【委員長】

- ・フィードバックは大事なものであると考えているので、次回の会議でぜひ御報告いただきたい。

【委員】

- ・土浦市の中にも働く場はある。連合茨城に加盟している神立工業団地の中でもまだ人手不足は続いている一方で、市内にも多くの県立高校、私立高校があることから、土浦市からの転出を防ぐためにも、地元企業と高校生達との結びつきの場を増やしていただきたい。
- ・つくば市は人口増加傾向にはあるが、こうした傾向にあるのは研究学園のみで、旧市街地の北条地区などでは過疎化が進んでいると聞いている。つくば市長は、そういう所を活性化するために、地元で声を上げてもらうよう進めていると聞く。やはり、町内会、自治会内から地元市民の声を拾い上げていただき、意見・要望を挙げてもらえば、防犯の向上等いろいろな意見が聴けるので、人口流出を防ぐためにも地元の声を聴いていただければと思う。

【事務局】

- ・来年の当初に、市長を始め、全部長で各地区を回って、地元のさまざまな御意見を伺う場を設けるので、その際にまちづくりに関する意見等いろいろな御意見を聴いていきたいと思う。

【委員】

- ・県内には、療育機関の施設が 200 ほどあるが、土浦市の中で十分な療育機関の施設がみつからず、つくば市や阿見町等の遠方に行ってしまう、また、保護者の方は、その機関を選定する際の基準に非常に悩んでいるという話を聞く。公立の療育機関もあるが、子どもを通わせながら、共働きをするには、長時間働くことができない、正職員で働いていても、雇用形態を変えなければならず、世帯収入が減ってしまい、重い障害を持つ子どもの家庭は、経済的に先が見えない状況にある。つくば市は、公的な機関でも、筑波大やつくばメディカルセンターと提携して、保護者の方が働きながら療育を受けられる施設があると聞く。一方で、土浦市は、民間の施設、保育所、認定子ども園、幼稚園に委託せざるを得ないが、ノウハウがない。人員の確保ができないので、どうしても短時間になってしまう。また、保育士の補助は、土浦市の独自だと 15,000 円となるが、つくば市は 30,000 円になり、土浦市に勤務している在住の保育士も 30 分も走らせればつくば市に行けることから、土浦市在住の職員が年々減っている。新規採用の学生もつくば市での勤務を希望する人が多いと聞く。土浦市に勤務される方は、つくば市までは遠くて行けない石岡市、小美玉市在住者の割合が多くなっている状況である。このように、人材の確保の面での支援や障害を持っている子ども、特にグレーゾーンといわれる子どもが年々増えてきていることから、その子たちへの支援の拠点になる施設や公的なサービス、マンパワーの必要性について、この場を借りて要望したい。

【事務局】

- ・療育を行うに当たり、公的な施設で行うことによる充実については、これまで、保育所の民間活力導入を推進してきたが、公設でやる部分も必要であると考えている。また、拠点施設については、市レベルで児童発達支援センターの設置が義務付けられる形となってきており、検討していく。さらに、保育士がつくば市に流れている状況は把握しているので、処遇改善に取り組んでいきたい。

【委員】

- ・私が住んでいるところは、過疎が進んでおり、若い人たちが、東京やつくば市に出て行って、帰ってこない現状にある。帰ってこない理由は、公共交通で、バスは通っていても、高校になると通う手段がない。数年前に土浦市がバスを走らせてくれたが、高校生が使わない時間帯には誰も利用していないバスが通っており、もったいなかった。例えば、時間帯を子どもの通学・帰宅時間帯に合わせて通してもらえれば、子どもも通えるし、新しい若い世代が帰ってきて、子どもを産んで生活するのに便利になるので、そうした取組も必要だと思う。最近では、神立駅など駅前がきれいになり、ほかにも、特定不妊治療や高校生までのマル福拡大などいい取組を行ってくれているので、そういったところをもっとアピールして、住みやすいところになればよいと思う。

【事務局】

- ・公共交通のうちバス路線については、現在路線バス以外にも、中心市街地の活性化バスや、神立地区については、かすみがうら市と連携して新たなバス路線を設けるなど、徐々に取組を充実させているところであるが、まだまだ十分でないことは認識している。市におけるバス路線の考え方については、まず、市全体での交通の計画を策定し、その中で整理しており、バス路線の調査も現在行っているところである。ここで、バス路線の維持に当たっては、一定の人口規模が必要であり、そのほかにも様々な要件があることから、優先順位も含めて検討していきたい。また、既存のバス路線についても、廃止にならないよう支援を行っていきたい。

【委員】

- ・私が住んでいるところはバスがない。JR バスも廃止になり、高校生が出るのも大変である。農園経営者なども高齢化が進み、収穫なども今年はできないのではないかと切実に思っている。せつかく農作物をよく育てられるいい土地があるので、こうした土地を利用して、活性化につなげてもらえれば、若い人たちが帰ってくると思う。前にコミュニティバスを走らせてもらっていたが、土浦駅まで行かないなど地域の実情に合っていない面もあったので、地元の声を少し聞いていただきたい。

【事務局】

- ・以前委員のお住まいの地区で走らせたコミュニティバスについては、朝の通勤・通学時間帯は土浦駅まで走らせていたが、日中については、地区内の循環での運行とさせていただいたところである。また、委員がお住まいの地区の魅力として、自然豊かなでスポーツ・レジャーの場としてのポテンシャルもあることから、都会で住む人たちが自然に触れあう土地と農村の交流事業などを通じて、地区の魅力をしっ

かりアピールしていきたい。

- ・Uターンの部分については、1期計画でも取組を設けており、なかなか実現までは至っていないが、2期計画でも引き続き、検討していきたいと考えている。また、今年度は、定住のきっかけづくりとして、コロナ禍でテレワークをきっかけとした移住体験を新たな取組を始めたところであり、移住やUターンにつなげていければと考えている。

【委員長】

- ・時間も押しているので、ここで、いったんこの話題については打ち切り、次の話題に移りたいと思う。

イ 地方創生関係交付金事業の実施状況について

【委員長】

- ・地方創生関係交付金事業については、国からの財源で実施しているものであり、説明責任があることから、この会議で委員の皆様にご確認いただいているところである。

【委員】

- ・今まで、この会議の中では様々な課題について議論してきたが、これだけのことを達成していたということを市民にきちんと周知・啓発してほしい。
- ・交付金については、住民と行政が一体となって検討できるようなシステムをつくってほしい。
- ・54 ページの全事業の評価のまとめの中で、霞ヶ浦に対する認識を高めていただきたい。水郷筑波サイクリングによるまちづくりプロジェクトがいききっかけになったと思うが、霞ヶ浦は縦割り行政の最たるもので、管理者が国、県、市とそれぞれ違うことからなかなかうまくいかない。1970年代のアオコ発生以来負のイメージで、私たちも一生懸命啓発してきたが、これをひっくり返すことは難しい状況であることから、霞ヶ浦の周辺を整備するならば、水質に対するイメージ向上についても考えてほしい。
- ・霞ヶ浦では、漁業者や流域での花づくりなどで若い世代が苦勞しているので、JAには、異業種間のネットワークの構築による支援をお願いしたい。
- ・自転車のまちづくりについては、エコの側面や安全性の課題もある。今の中学生、高校生の自転車の乗り方は危険以外の何ものでもないため、自転車の乗り方の教育も行なってほしい。自転車のまちづくりは、観光施策の側面が大きいですが、安全に自転車に乗ることができる環境を整えるなど、地元の人たちがサイクリングに関わってよかったと思えるような地元目線での視点も持っていただきたい。

【事務局】

- ・市民への周知・啓発の部分については、今年度市のホームページもリニューアルすることから、これと合わせて、周知方法についても、今回の委員の御意見を踏まえ

て、反映できればと考えている。

- ・交付金については、サイクリング事業などに活用している地方創生関係交付金に加えて、今年度は新型コロナ対応型の臨時交付金もある。ここで、こうした交付金の使途については、来年早々に市民の皆様から直接御意見を頂く場を設けることから、皆様の御意見を踏まえて、有効活用していきたいと考えている。
- ・霞ヶ浦の浄化については、生活排水対策や工業事業排水対策の強化を進めている。委員御指摘のとおり、縦割り行政による弊害の面もあるが、水質浄化の対策については、国、県、流域市町村及び霞ヶ浦問題協議会などと連携しながら、引き続き、進めていければと考えている。
- ・サイクリングについては、昨年度土浦市自転車のまちづくり構想を策定している。この計画においては、観光面だけではなく生活面の視点からも内容を検討しており、この中で安全対策や乗り方講習も議題に挙げたところである。また、あわせて、ネットワーク計画を策定しており、この中で通学路等について、矢羽根を引くなどの検討も行ったところであり、こうした取組を進めていければと考えている。

【委員長】

- ・日本の生産性が上がらない理由の一つとして、縦割りの弊害がある。国もそうであり、難しい面もあるが、少なくとも意識だけはしてもらいたい。

【委員】

- ・今年はコロナ禍で花農家が非常に苦勞していることから、国、県及び市にお願いして、販売に力を入れたところである。また、霞ヶ浦近郊では、レンコン栽培が盛んということで、レンコン農家については、ある程度後継者が戻ってきているが、逆に、かすみがうら市や近隣の市町村はそれほどいないという状況であり、問題は多数あるが、農協の方でできることはやっていきたいと考えている。

【委員長】

- ・時間がきたので、質疑はこれで終了したいと思う。
- ・総合戦略の進行管理については、今日提示した事務局案の方向で進めてよいか。

[異議なし。]

【委員長】

- ・今日の総括について、副委員長にお願いしたい。

【副委員長】

- ・有識者会議の大きな視点は、人口ビジョンであろうかと思うが、本日の委員の方の意見にもあったとおり、様々な声、特に、地元の声を一つ一つ丁寧に聴いていくということは、人口ビジョンを達成する上でも重要なことなので、ぜひ拾い上げていただきたいと思います。
- ・人口動態の統計をみると、県内の他の自治体に比べ、土浦市は、婚姻率は上昇して

いるが、出生率は低めであるところに潜在的なポテンシャル自体は感じているところである。アンケート結果からみると、経済的な部分がネックになって、子どもが持てないというところから出生率を向上するための施策のヒントも見え隠れしている。最近ヤフーニュースでも話題になっていたが、ある特定の都道府県において、結婚して、一定の条件を満たした世帯には30万円を支給する制度があり、来年度は支給額を倍増する計画もあるそうである。ここで、土浦市はその市町村に該当しているが、つくば市や阿見町は該当していない。土浦市は、そういった有利な地点でもあるので、こうした点を地元の方へもアピールして、潜在的な力のある土浦市を明るい方向に導けていければと思う。

【委員長】

- ・それでは、以上で会議を終了して、司会を事務局にお返しする。

【事務局】

- ・本日の議事録については、委員長に確認していただいた上で、委員の方々には後日送付する。
- ・次回の会議は、来年度に開催を予定している。
- ・現在の委員の任期については、今月の27日で満了を迎えることから、今後、改めて委員の人選を行い、来年度の会議に向けて準備を進めていく。

4 その他

なし。

5 閉会

以 上